

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170200267		
法人名	有限会社バリアフリーLife		
事業所名	グループホームひだまり		
所在地	唐津市佐志1146番地11		
自己評価作成日	平成23年3月31日	評価結果市町村受理日	平成23年8月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigojohou-saga.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigojohou-saga.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成23年4月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生活環境とご家族様との絆を特に重視して運営を行っている。その為に掃除や衛生管理、その人にあった生活スタイルの確立を重視している。また、楽しく日々を送れるようにメリハリのある生活、新鮮さを一緒に感じることに力を入れている。  
ご家族様の絆を、当施設をご利用になることで強く出来るように、ご家族様の負担や思いをしっかりと受け止め、さまざまな障害のクッション、またはバリアになることで今まで以上にお互いのことを思いやる絆作りができればと職員一同力を入れています。  
また、認知症による生活環境、絆の低下を防ぐために「くもん学習療法」を導入し、認知症進行防止や少しでも改善につなげるよう努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

唐津湾が一望できる高台に位置し、「寄り添い」という法人理念を掲げ、入居者への寄り添い、人生への寄り添い、環境への寄り添い等など、常に寄り添ったケアが実践できているか振り返りながら、入居者個々に合った介護を目指されている。また、月1回テーマが決められ全職員が作文を書き、法人代表が目を通すなど、職員一人ひとりの交流を図りながら、その思いをくみ取り、法人の方針としてのケアの在り方等を職員一人一人が周知できるようアドバイスされている。  
また、ホームの中には季節の生花や手作りの掲示物が飾られ、窓からの景色と共に、季節の流れを感じながらゆったりとした雰囲気の中で安心して過ごせるよう配慮されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を最も重要と位置づけ取り組んでいます。 ・入社時の新人研修により目標や存在価値、やらなければならないことを理解する。 ・事業所会議内で「今月の寄り添い」として、全職事例を出しディスカッションしている。	法人の理念として『寄り添い』を掲げ、入居者への寄り添い、家族への寄り添い、環境への寄り添い等と、理念の実現に向けた介護に努められている。朝礼や会議等の折に振り返る機会をもたれ、理念に基づいた13項目の心得と共に、日々のケアの中での実践を目指されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	普段よりしっかりと笑顔で挨拶することを徹底しています。施設前を通られるときなどお茶にお誘いしたりしている。	ボランティア活動として、ゴミ置き場や地域の清掃活動をホームで行ったり、近隣の施設との夏祭りの交流等も積極的に行われている。また、地区の夏祭りへの参加、児童館からの慰問等も受けられている。	行政区が昨年末に明確になり、今後は更に関りを深めていけるよう計画されているところであり、更なる関係の構築に努められることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域老人会へ介護保険についての説明会など積極的に交流しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の会議を全てご家族様に参加のお誘いをして、一人でも多くの意見を聞ける場をつくりサービスや施設への要望等を頂きサービスの向上につなげている。	運営推進会議は2ヶ月に一度の割合で実施されている。家族、市の職員等が参加され、ホーム行事の報告が行われ、サービスの質の向上を目指し、意見の聴取の機会としても活用されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相談、報告を確実にこなっています。行政、お客様の意見を把握しバランスの取れたサービスを心がけています。	市担当者からのアドバイスを受け、隣接のグループホームとの連携を図るなど、日頃から相談、支援を受けやすい関係作りにも努められている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束も施錠も行っていない自由の外へでいただける体制をとっている。徘徊等についても制限することなく職員が同行して外出して頂いている。	身体拘束をしないケアの大切さを職員全体で理解され、外へ出ようとする入居者にもその気持ちに寄り添い、落ち着かれるのを待つという支援を実践されている。玄関の施錠を含め現在拘束はされていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内、事業所内での研修で各職員がしっかりと学び、もしかしたら身近にあるかもしれないという意識で業務に取り組んでいます。会議等で話し合いの場を持ち意識を高めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会や社内の勉強会をおこなっています。 参加できない者には研修報告などを行い確実に知識の共有化を図っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様やご家族が納得して頂けるまで、説明の時間を取り誤解や不安の残らないよう取り組んでいます。 お客様に疑問点等を問いかけることも必ず行うようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族会等を意見の交換の場としたり、苦情対応マニュアルの整備を行い、第三者機関の連絡担当部署なども明記し事あるごとに紹介している。	アンケートが実施されたり、年3回の家族会の折や面会時にできるだけ話を聞き、意見、要望をくみ取るよう努められている。家族会では家族同士の交流も図られ、それがホームの草取りへの協力に繋がるなどしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・事業所 所長、主任の会議から職員の意見を聞いている。 ・定期的に職員と面談し対話の時間を作っている ・自己評価(2面、3面)を行い、色々な視点から自己を見直しアドバイス、考えを相互的に話し合っている。	会議の折、申し送り時、面接の折等、機会あるごとに意見の聴取に努め、運営に反映できるものは全体で話しあいながら活かすよう努められている。法人代表者、管理者と職員との関係も良好であり、日頃から気軽に意見を言える関係作りが構築されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的、面談の時間や臨時的な面談等にて職員の環境の変化を考慮しできる限りの条件を検討している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時の新人研修から教育を開始し個々の力量を測りながら所長・主任の判断で研修・勉強会に参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	見学や視察受入を積極的に行いながら情報交換や職員同士のコミュニケーション知識向上に役立てています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・事前訪問で関係作りをしっかりと行っている。必要であれば何度も訪問を行うようにしている。 ・10年前の生活環境・趣味・趣向・仕事などを把握し本人様の生活スタイルを知ることによってコミュニケーションをとりやすくし、本人の不安やストレスを少なくするような環境づくりをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・訪問・電話・文章などにより関係を深めるようにしている。 ・アンケートを実施し、代表者に直接返信できる対策をとり、意見・要望を受け入れるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	細かい確認を取りながら必要に応じた援助を見極め、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・利用者様を人生の先輩として尊敬の気持ちで忘れず、相談・指導・協力を本としてともに生活していくことを徹底している。 ・家族会などを通じてご家族様と一緒に利用者様の生活を援助していくようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・介護の2面性を十分に理解しご家族様の負担や思い、ご利用者様の生活を思いの両面を意識し最良の支援方法を一緒に相談し決定していくようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・年2回、個別ドライブを計画しふるさとへお連れしたり、好んで行かれていた場所へお連れしている。 ・お正月・節句・お盆・大掃除など昔ながらのならわしを家庭的な雰囲気で行っている。	家族、知人、昔の仕事仲間等の訪問も多く、ホームとしても訪問しやすい雰囲気作りにも努められている。入居者の希望に応じた住み慣れた場所へのドライブ、自宅への帰省、地元の神社への参拝等、その関係が途切れないよう支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係に常に目を配り、時にはクッションに時には通訳などになり、一人一人が楽しく生活できるよう援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	系列の施設への変更は数例あるも契約終了は無く、亡くなられるまで利用して頂いている。 施設の移動があった方には、時々お顔を見に行ったりしている。亡くなられた方については墓参りや家族様の顔を見に行くなどの関係を築いている。施設のイベントにも必ずお誘いし、気軽に立ち寄りいただけるように思っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々の会話からさりげなく聞き取るようなスキルを日々意識させている。又アンケート等を行い皆さんが気軽に希望を言えるようにしている。 ・希望がある場合には、最善を尽くすようにしている。難しい場合には専門家や経験者などへ相談し事業所だけで合否しないようにしている。	アセスメント情報や家族アンケートを職員全員で共有し、“寄り添い”という理念のもと、日々の会話や何気ないサインを見逃さず、入居者の思いに寄り添うよう日々努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前に徹底して行うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・各職員が日々の観察を十分行っている。 ・事業所会議には利用者様についての話し合いを行い多くの視点にて総合的に把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・会議等にてよく話し合いプランニングしている。 ・家族様・ご本人にしっかりと説明し意見・要望を聞き取り再度見直ししている。	担当者会議には家族も必ず参加され、本人、家族の意向を把握した計画が作成されている。定期、随時の見直し評価も実施され、その都度家族への説明も行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・ひと目で援助内容が分かるように日々生活援助を具体的に書き出して、チェックするようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物に行きたい。外出・散歩に行きたい等の要望に応じて柔軟な援助を行っている。家族の要望には施設内で話し合い柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて、協力機関に協力を求め応じていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人のかかりつけ医を設けて定期的に往診・受診している。 ・かかりつけ医とは24時間体制で契約している。	入居者、家族の希望に応じたかかりつけ医のもと、定期的な受診、往診が行われている。専門医への受診にも家族と共に、ホームでも対応されている。また、かかりつけ医とは24時間連携可能な体制もとられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日勤に常時看護師を常勤させ日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が医療機関と相談しながら連携を取り、早期退院につなげている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医・看護職・介護職・ご家族様と情報交換し共に変化に備え検討して準備している。	契約時にホームの指針が説明され、その時点での家族の希望も確認されている。状態に応じ、家族、主治医、職員と話し合いの場を持ち、看取りも実施されており、希望されれば対応できる体制もとられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルの整備により全職員が対応できるように訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・消防署・地元消防等を日頃から訓練等でお世話になり連携をとっている。 ・マニュアルの整備にて混乱が無いように訓練している。	年2回、地元消防団からの協力も得ながら、夜間を想定した避難訓練が実施されている。	避難経路が玄関のみで、今後検討を重ね、地区の避難場所、避難経路についても確認するとともに、その他の災害についても対応できるよう整備されていく事が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりが人生の先輩として尊敬し又お客様として人格を尊重し関わっている。</li> <li>一人ひとりのプライドを損ねないよう、そのひとの世界を大切に受け入れるようにしている。</li> <li>記録の保管に配慮している。</li> </ul>	入居者一人ひとりの生活歴や背景を意識した対応や言葉使いに努められている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>その人に合わせたゆったりとした生活をして頂くようにしている。</li> <li>常に問いかけ希望や自己決定を促す言葉・声かけを行うようにしている。表現できない方についてはさらに表情等を十分に読み取るよう努めている。</li> </ul>		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員側のやり易さに合わせるのではなく入所者側に合わせている。忙しいときも必ず顔を見て、対応する。すぐに来ない時は、目安の時間をつけ必ず再度伺うようにしている。</li> <li>対応時は、ゆったりとした雰囲気で行うことを大切にしている。</li> </ul>		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人の希望に合わせた、化粧・髪型・服装をしていただき、自分で出来ないところは介助している。</li> <li>理美容は、訪問美容を受け入れているがご希望であれば希望される美容室へお連れする。</li> </ul>		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>栄養士に相談しながら献立を作ってもらっている。</li> <li>食事の準備・片付け等も利用者様と職員が一緒になって楽しみながら行っている。</li> <li>リクエストメニューなども取り入れている。</li> </ul>	法人全体で献立が立てられ、高カロリー食、カリウム食など状態に応じた食事の提供がなされている。また、リクエストメニューやおやつ作りによって、食べる楽しみ、作る楽しみも工夫されている。職員も一緒にテーブルにつき、介助をしながら、ゆっくりとした時間の中で、食事を楽しむ雰囲気作りを工夫されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>水分量・食事摂取量を記録し情報を共有し個々のケアにつなげている。</li> <li>個々のその時々状態に合わせて形態や時間等、検討しながら支援している。</li> </ul>		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎食後、うがい・歯磨きを行っている。</li> <li>義歯の定期的消毒・舌ブラシ・歯ブラシについても個々に合わせ使いわけるようにしている。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄チェック表を活用し失敗を防ぎ、出来るだけトイレで排泄していただくよう取り組んでいる。	入居者一人ひとりの排泄パターンを把握した誘導が行われている。重度の方以外は日中はトイレでの排泄支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・野菜の摂取を多くする為、温野菜にするなど工夫している。 ・一日一回乳製品(ヨーグルト・牛乳)の摂取 ・勉強会等にて排泄メカニズムや対策などの知識向上させている。 ・適度の運動など日常生活の中で視線排泄につながる工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・ご希望があれば、いつでも入浴できるようにしている。 ・現実としては、中々入浴に積極的な方が少なくこちらから声かけし入浴される	毎日入浴は可能である。希望に応じた時間帯での入浴についても対応され、コミュニケーションの場としても、入浴の時間を大切にされている。また、入浴のほか、冬場は足浴、手浴が毎日行なわれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・一人ひとりの状態に合わせ、休憩していただいている。 ・就寝もご自由な時間に出来るようにしている ・室温湿度の管理		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服使用者の薬の効能を知り医師の指示どおりに内服できるよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・個々の楽しみ役割が持てるよう入所者様の意思を尊重し、職員が情報を提供して張り合いのある生活につながるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ふる里訪問、個別ドライブ、全体ドライブなど、計画的に行っている。その日の天候や体調等にあわせ、外出を心掛けている。	外食、自宅への帰省の支援、花見などの季節行事での外出のほか、年2回一人ひとりの希望を叶える個別の外出支援の機会が持たれている。また、散歩、草むしり、テラスでお茶を楽しむ等、日常的に戸外で過ごす時間も大切にされている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があった場合、可能な限り速やかに対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙など希望時は自由に利用できるようすぐに対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・家庭的で、家電・家具など暖色系を取り入れられる等ほっとする雰囲気作りに配慮している。 ・施設内には常に季節の花を飾っている。	リビングの窓からは唐津湾が臨め、雄大な景色が広がっている。手作りの壁飾りや生花が飾られ、季節感を肌で感じられるよう工夫されている。光の調節、テレビの音、会話の音の高さ等々にも配慮しながら、温かい雰囲気作りにも努められている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・家具の配置を工夫し、数人で楽しめる空間を作ったり、個人でゆったりとした時間を過ごせる場所を作るなどしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や、人形など、生活用品を自由に持ち込んでいただき、その人らしい部屋作りをしている。	全室窓から唐津湾が臨め、タンス等の家具や写真等、一人ひとりが使い慣れた好みのもので持ち込まれ、安心して居心地良く過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・バリアフリー設計にて自立援助を支援し、家族様からの情報や入居者様の希望をしっかりと受入工夫につなげている。		